

令和六年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

佳作

別府市立境川小学校五年 工藤 翔太

「障がいのあるお姉ちゃんとお出かけ」

ぼくのお姉ちゃんは、脳の病気で、歩くことや話すことができません。感せん症で命を落とす可能性があると言われていたので、コロナで行動制限がある時は、旅行などお出かけが出来ませんでした。今年は、コロナが収まっていて、お姉ちゃんの体調もよかったので、久しぶりに家族で旅行に出かけることができました。その旅行を通して感じたことや考えたことがあります。

まず一つ目は、ちゅう車場についてです。ちゅう車場には、車いす専用のスペースがありますが、利用証をつけていない車が車いす専用のちゅう車場に停めていることがあります。本当に使いたい人が困ってしまいます。ただでさえ車いす専用のちゅう車場は少ないので元気な人はふつうのちゅう車場を使ってほしいです。

お母さんは、

「見た目ではわからない病気や障がいを持っている人もいるから、見た目だけで判断しないようにしようね。」

とぼくに言いました。たしかに見ただけで判断しないようにしようと思いました。でもだからこそ、きちんと申し込んで、利用証をもらい見えるところに置いたほうがいいのではと

思います。ぼくが大人になって運転するようになったら、ルールやマナーをしつかり守りたいと思います。ぼくが大人になって運転するようになったら、ルールやマナーをしつかり守りたいと思います。

二つ目は、道路や建物が車いすに乗っている人にとって、不便なことがあると思います。た。ぼくにとっては、ちょっとしただんきは気にならないけれど、車いすに乗っている人だったらスムーズに動くことができず、困るだろうなと思います。

公共しせつ等は、バリアフリーになっているところも増えてきているけれど、まだバリアフリーになっていないところもあり困っている人はたくさんいるだろうなと思います。

今回の旅行でお姉ちゃんと一緒に行ったご飯屋さんでは、テーブルとイスの間がせまく、通りにくかったです。ですが店員さんがお姉ちゃんをみて、イスをどけて道を広くしてくれたり、出入りがしやすい一番手前のテーブルに案内してくれました。うれしかったです。

全部がバリアフリーになるのは難しいと思うけど、だれかが手伝えば問題はなくなると思うので、僕も困っている人を見かけたらすぐに手伝いたいと思いました。

車いすでの生活について考えていたときに、「ユニバーサルデザイン」という言葉を授業で習ったことを思い出しました。ユニバーサルデザインとはお姉ちゃんのように車いすに乗っている人だけではなく、子どもやお年より、外国の人など、だれでも使えることを目指すもののことを言います。障がいのある人もない人も、お年よりや子どもも、だれでも生活しやすい世の中になればいいなと思います。

お姉ちゃんは一人では何もできないけれど、手伝えばできることも沢山あります。これからもぼくにできることは手伝っていききたいです。